

## 25 被服工作技術に於ける Technique profile の比較と立体移動の傾向について

郡山女子短大 関口 富左  
門馬 寿子

1 被服工作技術の上達は経験的繰返しによるものとされているが、はたしてそれ以外に方法はないものであろうか、……技術そのものを分析究明して技術指導の原理を把握し、学問的解明を試み家政学の一分野たる被服工作の学問的位置づけを目的とする。

2 実験対象……短大家政科一年 60 名、延 110 名

実験試料……大裁女単衣長着の製作として木綿浴衣地及び水色ブロード地、延 110 反

(1) グループ別比較実験……A B 群に別れ、A 群は T.P に関係せず次回作品を継続製作し、1 回 2 回の Type の移動を検す。B 群は 1 回製作後直ちに T.P. の Type を検し、2 回目より T. P. の Type による小グルー

プ別指導により製作しその T.P. を検し 1~2 回との移動型を見る。又同時に A 群 B 群の Type の比較を行う。

- (2) T.P. による任意抽出による立体的移動傾向の実験  
B 群中より 10 名を出し、試料、条件を整えて同様作品を製作する。次に同様作品を再び製作し、各々それぞれを評価しその移動を検す。

3 AB 2 群の T.P. の移動を比較すれば、意識することにより profile に変化が見られるが、これが技術上達の移動的傾向である。立体的移動傾向は、(1)速度は別として完全度の高位型は洗練正確の移動上昇が速やかである。(2)相対評価により各人の T.P. に移動があるので各個評価も併用せねばならぬ。(3)正確度は上昇しにくい等の結論をみた。